

インタビュー テイコク 森英樹社長

2024/12/13 中部

岐阜市にある建設コンサルタント会社のテイコクは、1954年に測量会社として創業し、2024年には節目となる70周年を迎えた。最近の10年間で東北地方や近畿地方などの全国各地に新拠点を設けてきたが、同年10月、社長に就任した森英樹氏は、「新たな成長に向けた挑戦を続けていく」と、さらなる広域展開を視野に入れた方針を示した。

人材確保や技術・品質向上などの課題が山積みする中で、森社長に就任への意気込みや同社の展望などを聞いた（聞き手・岐阜支局＝小松和正）

―社長就任への意気込みは。

「昨期は、社員一人一人の努力やチームワークの効果もあり、創業以来初となる売り上げ50億円を突破できた。この実績を糧に、新たな成長に向けた挑戦を続けていきたい。今後は地域に密着した事業を維持しつつ、さらなる広域展開を視野に入れている」

「地域の未来を支える若手人材の育成や環境保全活動、地域の魅力を高める活動への参加を通じて、地域と企業がともに成長し、持続的発展が可能な社会の実現を目指していきたい」

―人材確保や社員の定着に向けて心掛けていることは。

「私自身がこれまで社員とほぼ『ゼロ距離』で接してきたからこそ、オープンで透明性の高い『風通しの良い』職場環境づくりを心掛けていきたい。社員同士の交流を促進するための機会を提供する際には、参加の自由度を持たせるなど、柔軟な工夫も行っている。

「労働時間に関しては『フレックスタイム制』や祝日に替えて休暇を自由に取得できる『リフレッシュ休暇制度』を設けて、多様な働き方に対応している。男性の育児休暇所得率も高く、『くるみん認定』も取得し社員の求めに応じたフレキシブルな働き方が可能な環境を整備できていると思う」

「中部地方整備局が主催する『輝く！！中部DX大賞』で敢闘賞を受賞した研究である『AIと衛星画像を用いた土砂災害警戒区域における土地利用変化の抽出』は、岐阜大学の教授との共同で行った。人材確保という観点から、今後はこのような大学との共同研究を積極的に行い、学生に会社を知ってもらうと同時に、会社の技術力向上にもつなげていきたいと考えている」

―多くの技術を取り入れていると聞くと、特に力を入れている技術は。



テイコク 森英樹社長

「地中レーダーと3次元モバイルマッピングシステムを搭載した3次元調査システム『GMS 3』を、中部地方整備局管内や東京、大阪などで導入している。両システムで得た地上と地下の空洞などの情報は一元管理が可能で、高い精度と作業効率の向上が期待できる。今後は全国の都道府県や市町村での導入を目指していきたい」

—最後に、今後の抱負を聞かせてほしい。

「建設コンサルタント業界は、地域社会の未来を支える欠かせない存在。私たちがその誇りと責任を胸に、新しい価値を創造していく必要がある。そのためには長期的な視点で戦略を立て、市場の変化へ柔軟に対応して新たなビジネスチャンスを追求することで、持続的な成長を達成していきたい」

略歴

1962年生まれ。岐阜大学工学部土木工学科を卒業後、85年に帝国建設コンサルタント（現テイコク）に入社。道路・河川砂防設計などを経験し、2018年に取締役コンサルタント本部長、24年4月に取締役名古屋支社長を経て、同年10月に代表取締役社長就任。一宮市出身、62歳。